

テーマ：安心・安全な離島生活を営むためには？

式根島は、東京から船で3時間ほどの場所に位置し、人口約500人が暮らす小さな島である。「モヤイ」という助け合いの精神が根付いたコミュニティが特徴的であり、住民同士の結びつきが強い。そんな島では、防風林や電気自動車の導入といった防災対策が進められている。

私は式根島の防災における最大の課題を、災害発生時の孤立リスクであると考えます。地理的特性上、台風などの自然災害が発生すると、物流が遮断される可能性が非常に高い。式根島へは、新島経由でジェット船や大型客船が運航されているが、悪天候時には欠航となることが多く、数日間にわたって本島との行き来ができなくなることもある。これにより、食料や医薬品の供給が滞るだけでなく、緊急時の医療搬送が困難になるというリスクが生じる。

では、この課題を解決し、安心・安全な離島生活を実現するためには、どのような対策が必要なのだろうか。

まず、物資供給の確保が不可欠である。そのために、ドローンを活用した運送システムを導入することが考えられる。小型ドローンを使えば、天候の影響を受けにくく、悪天候時でも最低限の物資を迅速に供給することが可能となる。また、ドローンを活用すれば、医療品の緊急配送や救援物資の迅速な供給も実現できる。

次に、地域住民や観光客の防災意識の向上が必要である。例えば、島内の避難経路をよりわかりやすく表示し、誰でも迷わず避難するために、スマートフォンアプリを活用し、災害発生時に最適な避難ルートをリアルタイムで通知するといった仕組みを導入すれば、より迅速で的確な避難行動が可能となる。

加えて、地域全体の防災体制を強化することも欠かせない。住民同士の助け合いの精神を活かし、防災訓練を実施することで、災害発生時の対応力を向上させることができる。特に、高齢者や障がいのある方々の避難支援を強化することが必要であり、行政や地域団体と連携した防災計画の策定が求められる。

このように、式根島の防災対策を強化するためには、物流や、住民および観光客の防災意識向上、そして地域全体の協力体制の強化が重要である。離島であるからこそ、地域ぐるみでの防災意識を高め、持続可能な防災対策を構築することが必要だ。